

# 北九州市英語教育改善プラン

## (1) 英語教育の状況を踏まえた目標

英語教育実施状況調査や、全国学力・学習状況調査等の結果を基に、英語教育の現状と課題を分析し、目標及び数値指標を設定した。

また、改善が十分に進んでいないことが示されている項目についてはその要因として考えられることについて分析し、記述している。

## ① 学習到達目標の整備状況

「CAN-DO リスト」形式での学習到達目標については、中学校においては設定している学校が100%となり、達成状況の把握をしている学校も前回調査と比較すると、伸びており45.2%となっている。公表している学校は、今年度は19.4%になり、前回調査と比べると伸びている。学習到達目標については、公表し児童・生徒・保護者・地域と共有することで学習の改善につなげる必要がある。また、達成状況の把握をすることで、指導の改善につなげることが重要である。

小学校においては、学習到達目標の設定を行っている学校が55.8%あり、小学校でもその意義が浸透しつつある。

## ② 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合

授業中の言語活動時間については、徐々に増加する傾向にある。小中学校では、指導者用デジタル教科書を有効に活用し、言語活動の時間をこれまで以上に確保できるようになっている。本市で示している外国語科の授業づくりのポイントの一つ目が「単元を見通した言語活動の充実」であり、単元のゴールに向けて言語活動を積み重ねていくことを授業づくりの軸と考えている。今後さらなる改善に継続的に取り組む。

## ③ 「パフォーマンステストの実施状況」

スピーキングテストについては、ALTを活用するなどしてほぼ全ての中学校で毎学期に行うようになっている。ライティングテストについては今後も回数、内容の充実を目指す。また、定期考査や単元末テスト等のペーパーテストにおける「書くこと」の領域についても、3観点に対応し適切に評価規準をみとることができるように、継続して研修を行う。

小学校でも、パフォーマンステストの導入により、確実に一人一人をみとり、教師の指導改善、児童の学習改善につなげようとする意識が浸透しつつある。

## ④ 英語担当教員の授業における英語使用状況

教員の授業における英語使用状況は改善している。8割程度の教員が授業を英語で行っており、日本語は補助的に使うにとどめている。英語教育推進リーダーやメンタリング教員によって指導が充実した結果、All in Englishでの授業も多く行われている。授業を実際のコミュニケーションの場面とし、生徒に英語に触れる機会を充実させるよう継続して授業改善に取り組む。また、日本語を用いることでより効果的になる場面もある。英語を基本としながら、日本語を適切に用いる授業づくりについて研究を続ける必要がある。

## ⑤ 求められる英語力を有する英語担当教員の割合

求められる英語力を有する英語担当教員の割合は大きな変化がない。④で述べたとおり、授業を実際のコミュニケーションの場面とし、生徒に英語に触れる機会を充実するためには、教員が一定の英語運用能力をもつことが必須条件となる。外部検定試験の特別受験制度について周知するとともに、英語を使用言語とする研修等への積極的な参加を推奨する。また、校内でのALTを活用した英語力向上研修（英会話等）についても引き続き取り組む。

**⑥ 求められる英語力を有する生徒の割合**

求められる英語力を有する生徒の割合については、大きな変化はない。しかし、本市全中学3年生が継続して受検している英検I B Aテストにおいては、生徒の英語力について改善がみられる。特に、「聞くこと」について改善傾向にある。小学校から積み重ねている「話すこと」「聞くこと」の指導、及び授業内でのスモールトークの実施、「聞くこと」の言語活動の成果であると考えられる。また、令和3年度より希望する小学校の6年生において英検E S Gを実施しており、児童の学習の改善、学習意欲の向上、教師の指導改善、学習到達目標の達成状況の把握につながっている。

今後も上記テストなどの判定を活用し達成状況を把握することで指導に活かすなど、継続して改善に取り組む。

**<改善に向けて課題がある項目の要因>****項目① 学習到達目標の整備状況**

「CAN-DO リスト」形式での学習到達目標については、設定するだけでなく、公表し、児童生徒・保護者・地域と共有することで学習の改善につなげることが大切である。そのことについては、必ずしも理解が十分でないところもあり、その意義について周知する必要がある。また、学習到達目標の達成状況を把握し、指導の改善につなげることについて、理解はできていないもの、実施に至っていない場合がある。

児童生徒の学習状況を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、児童生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするために、学習到達目標を公表し、達成状況の把握を行うことについて継続して周知徹底していく。

**項目② 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合**

授業改善は進んでおり、言語活動時間の割合は徐々に増加する傾向にあるが、改善の余地がある。要因として、文法についての説明をしている場面が長い場合があること、活動の説明に使う時間が長いこと、言語活動ではない練習等に使う時間があることなどがあげられる。

英語の音声や語彙、表現、文法の知識を実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ることが必要不可欠である。

また、外国人A L Tや日本人A L T等の協力を得ることで、継続的に指導体制の充実を図り、言語活動を中心とした授業の推進を行う。

(2) (1) の目標を達成するための取組 (施策の全体像と具体的な計画)

(1) の目標を達成し、外国語教育を推進するための施策の全体像と具体的な計画について以下に記載する。

< 施策の全体像 >

令和4年度 北九州市外国語教育推進方針

【重点課題】

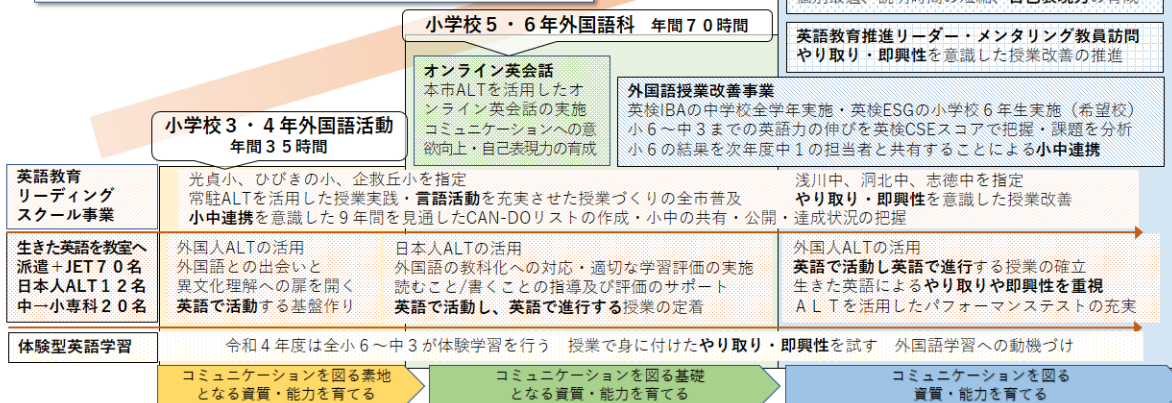
やり取り・即興性を重視したコミュニケーション能力の育成

- 自分の気持ちや考えを即興的に話したり、考えを整理してまとまりをもって書くなどの自己表現力の育成が急務。
- ・全国学調、高校入試などでも必要性が示されている自己表現力
- ・小中連携による効果的な授業改善
  - 一小学校での学び方、学習内容を意識した中学校での指導
  - 一中学校での学習内容 (特に初期) を意識した小学校での指導
- ・自己表現のないただの練習、文法説明にかける時間を適切に設定
- 英語で活動 (言語活動) し、英語で進行する授業づくり

北九州市イングリッシュコンテスト  
中学生が自分の考えを整理しまとまりをもって話す場の提供  
ふれあい国際交流教室  
帰国外国人児童・生徒や他の小中学生が英語を使ってふれあい、やり取りをする場の提供  
夏休みオンラインイングリッシュタイム/オンライン英会話  
小中学生が英語を使って即興的にやり取りをする場の提供

CEFR

卒業時  
目標  
A1  
英検3級  
程度



< 具体的な計画 >

① 学習到達目標の整備状況

- ・ 教育センター主催の専門研修 (教科等研修) において、学習到達目標の公表及び達成状況の把握の意義について研修する。また、市内外国語教員が所属する教科等教育研究部会において、オンラインを活用し研修を行う。また、英語教育推進リーダーが中心となって作成しているグッドプラクティス通信 (外国語科授業改善のための通信) や、学校訪問指導、メンタリング教員の採教員指導等においてもその重要性について周知していく。
- ・ 小学校外国語の教科化に伴い、学習到達目標を踏まえた授業づくりの重要性について、研修等において理解を深めていけるよう周知していく。作成にあたっては、英語教育リーディングスクールの作成した学習到達目標を KitaQ せんせいチャンネル (教員限定サイト) にて共有し、市内教員の参考とする。

② 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合

- ・ 本市では、「やり取り・即興性」を重視したコミュニケーション能力の育成を重点課題とし、北九州スタンダードを授業改善のポイントとして全教員で授業改善に取り組んでいる。

北九州スタンダード

「言語活動を通して指導する授業」づくりの5つのポイント

- 1 単元を見通した言語活動の充実
- 2 即興で伝え合う力を高める帯活動
- 3 Classroom English の使用
- 4 Content centered への転換
- 5 「話す」活動の後に「書く」活動



- ・ 授業改善を進めるため、英語教育推進リーダーが市内全学校を年に2～3回訪問し授業参観、指導助言を行っている。また、若年教員の指導を行うメンタリング教員が採用1～2年目程度の教員を対象に各学校を訪問し、専門教科に特化した支援・助言を行っている。
- ・ 一人一台端末を活用した言語活動の充実を図る。Microsoft Teams等を活用し、言語活動での協働的な学びや個別最適な学びの工夫について研究する。
- ・ 指導者デジタル教科書を全校で活用し、ほぼすべての英語科教員が使用することで、音声指導の充実、説明にかける時間の適切な設定を行い、言語活動の充実に努めている。
- ・ 小学校5・6年生に日本人ALTを配置し、担任ときめ細かく打ち合わせを行ったり、授業準備を行ったりすることで言語活動を中心とした授業づくりや、学習評価の充実に努めている。
- ・ 英語教育リーディングスクールが行っている授業の工夫について、ライブやオンデマンドでの公開、共有を行い、市内教員の参考とする。
- ・ 小学校での学びを活かし、中学校（特に初期段階）での指導を充実させるため、中学校教員に向けて小学校での学習の方法や内容について研修を行う。
- ・ 体験的な英語学習の機会をもたせることで、コミュニケーションへの積極的な態度の育成の一助とする。

### ③ 「パフォーマンステストの実施状況」

- ・ パフォーマンステストの好事例の普及と共有を行う。英語教育リーディングスクール等によるパフォーマンステストの動画や評価の方法について KitaQ せんせいチャンネル（教員限定サイト）に掲載し、好事例の普及を図る。
- ・ パフォーマンステストについては、一人一台端末の仕様を促進し、児童生徒のパフォーマンスを記録することで、児童生徒が自らの発話を振り返ったり、教員が指導の改善を行ったりできるようにする。

### ④ 英語担当教員の授業における英語使用状況

- ・ 授業改善のポイント「北九州スタンダード」の3つ目のポイントに Classroom English を設定している。従来の Classroom English の使い方を越えて、英語で活動し、英語で進行する授業づくりに取り組む。
- ・ 先導的なオンライン研修や、JET-ALTの全員参加研修など英語で行われる研修への参加を積極的に促したり、外部資格試験の受験を推奨したりして、授業における英語使用の基盤となる教員の英語力の伸長を図る。
- ・ ALTを活用した英語力向上校内研修を行う。1ヶ月1回30～1時間程度、校内における英語力向上研修の実施を推奨し、教師の英語力の伸長及び、ALTとの豊富なやり取りのある授業への改善を図る。
- ・ 小学校英語専科教員対象の研修を行う。小学校外国語活動、外国語における指導方法の具体等について情報交換や、協議をする。

### ⑤ 求められる英語力を有する英語担当教員の割合

- ・ 先導的なオンライン研修や、JET-ALTの全員参加研修など使用言語を英語とする研修への参加を積極的に促したり、外部資格試験の受験を推奨したりして、授業における英語使用の基盤となる教員の英語力の伸長を図る。
- ・ ALTを活用した英語力向上校内研修を行う。1ヶ月1回30分～1時間程度、校内における英語力向上研修の実施を推奨し、教師の英語力の伸長及び、ALTとの豊富なやり取りのある授業への改善を図る。

### ⑥ 求められる英語力を有する生徒の割合

- ・ 英検ESG/IBAテストを実施する。小学校6年生（希望校）、中学校全1～3年生にて英検ESG/IBAテストを実施し、児童生徒の学習改善、教師の指導改善につなげる。

- ・ 「北九州スタンダード」に基づく授業改善に継続的に取り組む。「即興性・やり取り」を重視し、全中学校英語科教員で取り組んでいる帯活動でのスモールトークを継続的に行う。教師のリキャストや、具体的な評価による適切なフィードバックで、生徒の発話内容の充実を図る。
- ・ 定期考査を含んだペーパーテストの改善についての外国語科教員研修を行う。ペーパーテストは、観点別学習状況の評価を行うための評価資料の一つとなることから、評価規準に沿った適切な問題作成が重要である。生徒が身に付けるべき英語力の育成に資するペーパーテストの作成について研究・研修する。
- ・ オンライン英会話の実証事業を行う。自分の考えや気持ちが伝わる経験によるコミュニケーションへの意欲の向上、十分な発話量の確保による自己表現力の育成を図る。
- ・ 児童生徒が英語を使って表現したり、英語を試したりする機会を提供する。児童生徒が英語で話す機会を増やし、意欲や英語力の向上を図るため、国際交流と英語力向上を目指したイベント（ふれあい国際交流教室）や、オンライン英会話（夏休みオンラインイングリッシュタイム）、スピーチコンテスト（北九州市イングリッシュコンテスト）を実施する。

#### ⑦ 新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合

- ・ 有資格者の実技試験免除を行う。求められる英語力を有する教師を確保するために、英語有資格者の特例として、本市が定める一定の英語力をもつ受験者について、第一次試験においては「英語リスニングテスト」及び「英語に関する専門試験」、第二次試験においては「英会話実技」及び「英語口述試験」を免除するなどの取組を行っている。

～参考～

【令和3年度実施 北九州市公立学校教員採用候補者選考試験における英語有資格者の特例】

小学校及び特別支援学校（小学部）の志願者について

- ・ 実用英語技能検定2級以上合格者、TOEFL (iBT) 42点以上取得者、TOEFL (PBT) 440以上取得者、TOEIC 550点以上取得者又はこれらと同等の資格を有する者のうち、特に教育委員会が認める者について、第二次試験における英会話実技を免除のうえ、各配点に応じた点数の加算を行った。（※対象は平成28年4月1日以降に資格取得した者）

(3) (2) を実施する体制の概要

本市では、市内の各学校と教育委員会の各課、教育センター、教科等教育研究部会（校長・教頭〔元外国語科教員〕、外国語科教員が所属）などが相互に協力しながら外国語教育の推進を行う。

また、外国語教育に関わるアドバイザー（指導主事・英語教育推進リーダー・メンタリング教員・教科等教育研究部会部会長等）が授業改善について定期的にミーティングを行い、市内の外国語授業について情報交換、協議を行い指導助言の方向性を統一する。

さらに、ALTに対しても、派遣会社や外国青年指導員との協力のもと、学習指導要領に基づく学習内容や、言語活動を中心とした指導の改善について研修を行い、児童生徒とALTの豊富なやり取りのある授業へ向けた授業改善を継続して行う。

